

# 音 喩 と 仕 形

四八

長 尾 豊

## 一

キルツの「幼稚園のち話と朝の訓話集」が出た  
一八九〇年は、小學校令の改正された明治二十三年にあたるから、それからモウ四十年の歳月が立ち、ホキシイの「幼稚園ち話集」が出た一九〇六年は同じく三十八年だから、すでに二十五年の日子を費してゐる。その間に出たブルスンの「子供の世界に」をはじめ、多くの話材集を並べて見て、變遷推移の跡をたづね、進歩發達の道をたどるのも一面面白いとも思ひ、又西洋人が長い間掛つて通つたところを、僅々數年で通り抜けてしま

はうとするには、差當つての近道にムダをしない道しるべのやうでもあるとは思はれるが、どうやら机上の閑事業らしくもあり、今の急がしい世の中に持出すのは、氣が引けて肩身の狹い感じさへする。

本も來てゐれば早く翻譯も出來、一等多く讀まれてゐるらしいブライアントの「ち話の聞かせ方」——と言ふとどうやら重言のやうにも聞える。丸善の店員の話では翻譯が出るとその原書が賣れるさうだから——や、クレッデイの「童話の研究」が出てからでもモウかれこれ十四五年、そろ／＼

ふた昔になりさうでゐて、お話のしらべも話方の

研究も餘りはかく／＼しく涉取つてゐないのは、餘りにすることが多くて、何もかも一遍に押寄せて来るやうな時勢が悪く、世の風潮が宜しくないにしても、まだその外にも幾つかの原因らしいものを數へることが出来る。

外のことはしばらく措くとしても、いつもしらべる對象がさまならず、研究の範圍が定まらないと言ふことも、いたづらに見當違ひを模捉したり、對象のまはり許りをグル／＼廻つてゐて、肝腎かなめの正味中味には少し觸れず、手の届かない懐みのある理由のやうにも思はれる。カナリ前からお話はしてゐても、幼稚園における談話といふものに就いての考が、言はゞ一家言のやうに區々とり／＼であつたり、又全くの「白紙」であつたりするといふやうな事も、原因のひとつはそのへんにあるらしく考へられる。

## 二

幼稚園の談話もお話の方から觀察すれば先づ幼兒ばなしではあらうが、同じく幼兒ばなしと言つてもそれ以前に家庭で物語られるもの、話者もひとり聞手もひとりで差向ひのお話や、子供を寝かしつける時の、仕形も表情も伴はない「おねんね囁」とは自ら別なものであり、それ以後に小学校の低學年で物語られる童話なども又幾分違つたものであらうと思はれる。

今日は家庭にお話がない時代ださうである。そこで「童話を家庭に返せ」など、いふ金切聲のやうな叫喚がおこるのでさうである。又幼稚園と小学校初級との連絡が考へられる割に、小学校の方が稍完全と言へなければ、とにかく調べられることだけはいろ／＼調べられてゐるに引きかへ、まだ餘り幼稚園の方では手が着いてゐない、といふ話を聞くこともある。これも外の點は分らないが

教室ばなしといふやうなお話の點からだけ見ると

どうも小學校の方が格段のちがひを示してゐるとも思はれない。もし家庭にもなくて、小學校にもないものとすれば、ひとり幼稚園のお話だけが備はらないと言つて責めるのは、これは責める者の無理であらうし、又その前後に比べれば必要に迫られるためでもあらうが、幼稚園でのお話といふものが、實際最も多く問題にされてゐるやうでもある。

最も多く問題にされてゐるだけあつて、従つて幼兒ばなしに就いての誤解らしいものも亦決して少なくないやうである。幼兒ばなしは幼兒の興味や理解、受容の點からも考へられなければならぬが、そんなものを先づひと纏めにして、突込みにして考へると、分り易いためには幼兒の言葉であるカタコトを用ゐ、モウひとつの幼兒の言葉である動作や仕形、身ぶり手眞似をたくさんに使つ

て話せば好い、と至つて簡単に考へられる。

### 三

なぜこれを至つて簡単な、至極お手輕な考と言ふかと開かれたらば、それは幼兒のカタコトや、それから言葉になる擬聲語と言つたやうなもの、烏カアカア、鳩ポツポ、お馬ヒンヒン、鈴ガラリンの類は、只單に幼兒の用ゐる言葉だから使ふのではなくて、生き／＼したお話の叙寫に必要であり、耳に快い音楽的な感じをもつものだから繰返しの多い歌ばなし風のお話には缺くべからざるわけだと思ひ、又お話は本來言葉によつて傳へられ、言葉によつて視覺化されるものでもあるが、表情や仕形の補助があつて完璧となり、これらを缺いたものがお話でもなければ、言葉で身振をなぞり、身振で言葉をなぞるものがお話ではない、と思ふからである。

お話のしらべが順調に育たず、すぐ役に立つ實

際の要求に應じたわけかも知れないが、本質的にも、基礎的にも考へられず、方法論や態度論的に畸形に發達したらしいものに「實演童話」と稱せられるお話口演のひとつの型がある。この一時世間を風靡した實演型の特色としては、必要以上に言葉の多い、話の時間の長いこと、必要以上に振の多い、従つて又二倍の時間の掛かること、などが、幼児ばなしの方へも影響して、音喩や身振過多の話をもち嘸されるのではないかとも思はれるが、そのもとはやはり幼児ばなしとはいかなるものであるか、お話とは又そも／＼いかなるものであるか、その根本が明らかにされて居なかつたためであると思はれる。

それとモウひとつには、かういふ音喩や身振聲色だくさんのお話らしいものが、單なる形や言葉のかしきとして、よしその話材や話法はどうあらうとも、簡便にお話に代り得るものであると思

はれ又時としては子供や心なき大人がそれを見聞きして笑ふから面白いお話、上手なお話とあやまられて來たためであらうとも思はれる。

## 保育談話會

### 開催の豫定

來る五月十六日(土)午後二時より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て